

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 日

事業所名: おり〜ぶ上野山

区分	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7	1		基準を満たしているが、個別対応を必要とするときには不足を感じる場合もある。
	2 職員の配置数は適切であるか	7	1		配置基準より多く配置しているが、活動内容によっては不足を感じる場合がある。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	8			児童館内にあるという事もあり、スロープや手すり、点字ブロック、多目的トイレ、介助用ベットが設置されている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	5	3		職員からの意見の聞き取りは適宜行っている。改善すべき点等についての取り組みを全員に周知できていない部分もある。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7	1		令和2年2月に、保護者評価を実施。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5	3		前年度分は掲載済み。 今年度分は、3月にホームページに掲載予定。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		5	3	第三者による外部評価は実施していない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8			内部研修を実施。外部研修へも参加している。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	8			アセスメントを実施し、保護者の同意を得て計画を作成している。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7	1		放課後ケアネットワーク仙台で作成した共通の書式を使用している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	7	1		毎月、行事や設定活動の立案を職員で相談し取り組んでいる。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6	2		工夫しているが、全ての児童を対象に取り組めるものとなると難しい現状もある。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	7	1		個々に合わせた計画を立て支援している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	7	1		それぞれの児童に合わせて、個別・集団活動のバランスを考慮し取り組んでいる。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5	3		朝から出勤している職員で打ち合わせを行っている。打ち合わせに参加が難しい場合は、ミーティングノートを活用し確認を行っている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	3	4	1	打ち合わせという形ではないが、気になる事項等に関してはその都度話し合っている。必要に応じ、ミーティングノートに記載し全職員把握できるようにしている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7	1		個別支援計画に沿ったケース記録を取っており、その他特記事項も状況に応じて記載している。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6	2		6ヶ月に一度、モニタリングを実施。計画の見直しを行っている。6か月以内でも必要に応じ見直しを行っている。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	2	6		自立支援・創作活動・地域交流・余暇活動等の支援を行っている。

区分	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6	2		児童発達支援管理責任者または、児童発達支援責任者の資格を持つ職員が出席をしている。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	8			保護者を通し情報共有・連絡調整を行っている。保護者の了解のもと、学校と直接やりとりをする場合もある。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	1	7		医療的ケアを必要とする児童の受け入れは行っていない。発作や持病等のある児童については、かかりつけ医や緊急時の対応など保護者と情報共有をしている。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	2	4	2	保護者から聞き取りを実施。必要があれば保護者の了解を得て、保育所等に情報提供を求めている。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	7	1		小学生対象のため、福祉サービス事業所への移行はない。進級し利用先となる事業所へは必要に応じ情報提供を行っている。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6	2		外部研修の機会はあるが参加できていない現状。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	8			長期休暇時の交流会、年数回の合同行事で交流を図っている。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		6	2	参加できていない。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	8			日々の送迎時、モニタリング時に活動の様子を伝えている。また、家庭での様子の聞き取りも行っている。状況に応じて電話でのやりとりも行っている。
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	1	6	1	茶話会を開き保護者同士の情報交換等を行っているが、ペアレントトレーニングまでには至っていない。
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7	1		新規契約時、更新時の面談の時に説明を行っている。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	8			その都度聞き取り、助言を行っている。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	6	2		茶話会を開き保護者同士の情報交換等を行っているが、連携までには至っていない。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8			苦情解決制度を設置し、周知している。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	8			行事や設定活動のおしらせを毎月配布している。おり〜ぶ4事業所で作成した通信は年2回発行している。
	35 個人情報に十分注意しているか	8			施錠できる場所に保管している。
	36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	8			それぞれにとって分かりやすい伝え方を考慮している。
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っているか	5	2	1	児童館を利用しているお子さんとの交流行事を立案し実施している。また、児童館と合同で七夕飾りを作り地域のスーパーに飾っている。

区分	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
非常時等の 対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	5	3		各マニュアルは作成し、事業所にファイリングしている。保護者に周知しきれていない部分もある。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	8			児童館と合同で定期的に避難訓練を実施している。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6	2		定期的にチェックリストで振り返りを行い、話し合いの機会を設けている。法人内の研修にも参加している。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	3	5		面談時に保護者の了解を得て、個別支援計画に記載している。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	2	4	2	現在、医師の診断による食物アレルギーのある児童の利用はない。これまでに診断されたことがある等、保護者から食材や様子等の聞き取りは行っている。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	3	3	2	事故報告書を作成し共有することで再発防止に努めている。今後は、ヒヤリハットも作成する。